



愛宕山石切場跡での清掃作業の様子

令和5年度発掘調査成果公開！



埋蔵文化財センターでは、大規模な開発事業や公共工事が行われる際の緊急発掘調査や、史跡を多くの方々に公開するための内容確認を目的とした調査を行っています。

令和5年度は、中央新幹線や新山梨環状道路建設等に伴った甲府盆地の氾濫原にある遺跡や史跡甲府城跡の整備事業に伴う発掘調査を行いました。

発掘調査を通じて、河川の氾濫や地震に遭いながらも同じ土地を利用し続けた人々や、現在と変わらない土地利用の様子などを知ることができました。今回の埋文やまなしは、令和5年度に発掘された最新の調査成果をご紹介します。

令和5年度 最新発掘情報

大津横田遺跡

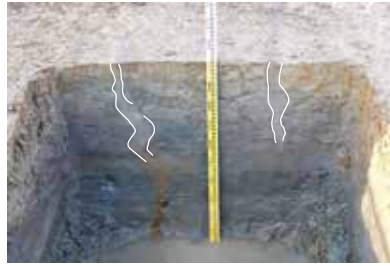
所在地：甲府市大津町 調査期間：令和5年9月11日～令和6年1月31日 時代：中世～近世



中世の水田のあと
畦が現在の畦と同じ位置にあります

甲府盆地の氾濫原^{はんらんげん}に位置する大津横田遺跡では、中世の水田跡がみつかりました。また、調査区の北側の広範囲にわたって地震による地割れの跡が確認されました。

みつかった一部の畦^{あぜ}は現代のものと区画が同じ部分があり、中世から現代まで土地利用や土地の地割りが変化することなく使用され続けたと考えられます。



地割れの跡



みつかったかわらけ

大津天神堂遺跡

所在地：甲府市大津町 調査期間：令和5年6月5日～継続中 時代：中世～近世

中世末～江戸時代前期（約400年前）の水田跡、その下層に室町時代後半頃（約500～600年前）の集落跡がみつかりました。

室町時代の集落跡からは、溝状遺構や掘立柱建物跡、素掘りの井戸^{いど}と思われる遺構などが確認され、当時の集落構造を知ることができます。溝状遺構は、日常的に水が流れていた可能性があるほか、屋敷地を区画する役割を担っていたと思われる。

また、地震による地割れの跡もみつかっています。



洪水で流れてきた砂で埋まった足跡
点々と残る白く囲まれた部分が足跡です



みつかった横槌
横槌は藁を打つときに使う



集落跡検出状況

大津天神堂遺跡の井戸（上）と二又第1遺跡の井戸（下）同じ地域の遺跡ですが、それぞれの土地の特性を考えて造られています。

二又第1遺跡

所在地：中央市成島 調査期間：令和5年7月6日～継続中 時代：中世



溝に区画された掘立柱建物跡
数多くの柱穴が残されています

室町時代後半頃（約500～600年前）の掘立柱建物跡や石組み井戸、人骨を伴う墓等と、それを囲む濠がみつかりました。

大津天神堂遺跡と比べてみると…

大津天神堂遺跡の井戸は素掘りですが、二又第1遺跡は石組みです。また、二又第1遺跡は建物も頻繁に建て替えられています。これは、二又第1遺跡が河川から流れてきた粗い砂の上に作られた遺跡であることが影響していると考えられます。そのため、井戸は崩落しないように石組みで囲い、建物の柱が腐りやすい環境であったと推測できます。



木棺墓と副葬品
かわらけや香炉が入れられています

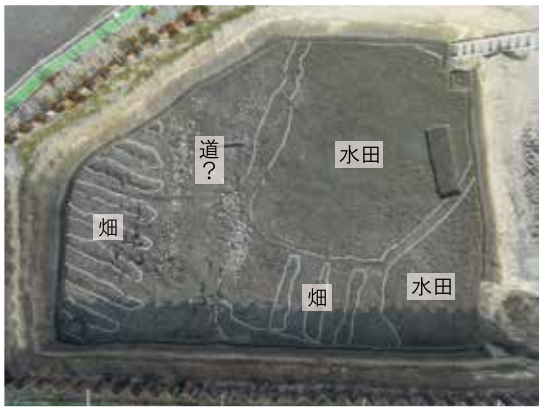
かみくぼいせき
上窪遺跡

所在地：中央市下河東 調査期間：令和5年1月10日～令和5年4月21日 時代：平安時代～中世

800～900年前のものと考えられる水田跡や、約1,100年前の水田と畑の跡などがみつけられました。

800～900年前の水田跡の東側には、近世以降に行われたと考えられる災害復旧の痕跡も見られました。

約1,100年前の田畑の畝や畦は、大地震により亀裂が入っており、部分的に亀裂から噴出した砂の痕跡である噴砂（ふんさ）を見ることができます。また、田畑の間では作業小屋と思われる掘立柱建物1棟が倒れた状態でみつけられました。



1,100年前の田畑の跡
水田と畑が近接している



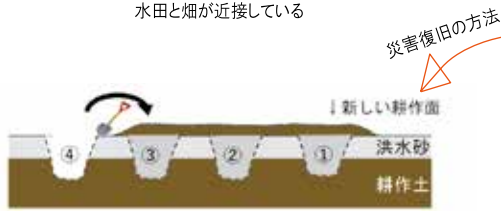
災害復旧の痕跡（天地返し）
洪水で流れてきた土砂と耕作できる土を入れ替えている



地震によってずれた畦



洪水で倒れた建物跡
木の柱が同じ方向に倒れている



災害復旧の方法

しんめいせいせき
神明遺跡

所在地：笛吹市石和町

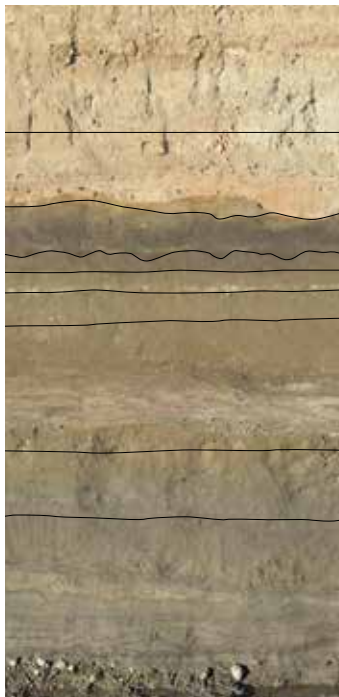
調査期間：令和5年7月24日～11月30日

時代：平安時代～中世

かつての笛吹川流路であった平等川の近くにあり、洪水被害に遭いやすい場所にある平安時代後期から中世にかけての遺跡です。

調査では、洪水で河川から流されてきた砂の層が厚く積み重なっていることや、少しでも洪水被害を避けるかのようにやや高い場所を中心に遺構が分布することがわかりました。

周囲のやや低いエリアでは、発掘調査で畑の跡ばかりが発見されていて、水害と共生する土地利用のあり方をみることができます。



神明遺跡の地層



中世の建物跡



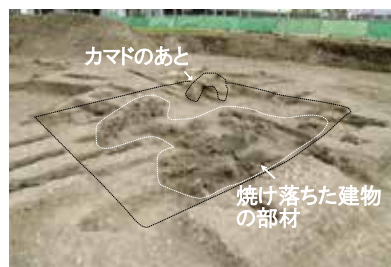
神明遺跡の位置

びしゃもんせいせき
毘沙門遺跡

所在地：笛吹市境川町 調査期間：令和5年5月8日～7月14日 時代：古墳時代～中世

今回の調査地点に近接する令和3年度の調査では、古墳時代後期から平安時代の竪穴建物跡がみつけられました。

今回の調査では、11世紀代の竪穴建物跡が7軒みつけられました。竪穴建物跡にはカマドが付属しているほか、甕などの炊事道具や椀、皿、壺といった日用で使われるものが多数発見されていて、住居の跡であると推測できます。炭化して黒くなった木材が多く残され、火災にあったと考えられる住居跡もみつっています。



火災にあったと思われる建物の跡



毘沙門遺跡の発掘地点

このほかの令和5年度の調査成果は埋文やまなし69号で紹介しています！！

史跡甲府城跡関連石切場詳細分布調査愛宕山石切場跡

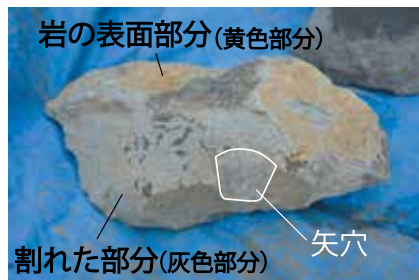
所在地：甲府市愛宕町 調査期間：令和6年2月1日～3月22日 時代：近世～近代

愛宕山石切場跡は甲府城の石切場であり、近代にはその痕跡を活かした庭園として使用されていました。この場所をいつどのように使っていたのか、明らかにするために調査を行なっています。

令和3年度の発掘調査では、大量に集積した安山岩の破片を確認しました。これは、石切場の時に採石で出た破片をまとめたものなのか、庭園を造る時にまとめたものなのか、今回の調査で明らかにしていく予定です。



安山岩の破片の検出状況



出土した安山岩の破片

史跡甲府城跡石垣維持管理事業

甲府城の重要な特徴のひとつは、自然のままの石をほとんど加工せずに積む「野面積み」の石垣であり、現在も築城当時のものが良好に残っています。この石垣を後世に残すため、そして利用者の安全確保のために年間を通じて城内すべての石垣の目視点検と範囲を限定した詳細点検を行っています。

今年度は、天守台南面石垣の詳細点検を行いました。早急に補修が必要な箇所はありませんでしたが、石の割れやゆるみなどの確認および簡易的な修繕を行いました。



点検の様子

やまなし城・居館めぐりのススメ完結記念！

令和3年度から刊行してきたウォーキングマップ「やまなし城・居館めぐりのススメ」が今年度で完結しました。マップでは、山梨県内の城館跡や烽火台跡、中世の武士に関係のある寺社などをめぐるウォーキングルートを紹介しています。マップを持って遺跡を訪れてみませんか。

①北杜・韮崎・甲斐・甲府編

オススメルート

甲斐武田氏 発祥の地（韮崎市）

武田信義が拠点とした地域をめぐるルート。甲斐源氏ゆかりの武田八幡宮や願成寺、武田信義館の要害である白山城跡などを歩く。



白山城跡遠景
城跡には土塁や
竪堀が良く残る

②峡東・郡内編

オススメルート

郡内領主小山田氏の足跡をたどる（都留市）

小山田氏の墓所がある桂林寺や小山田氏により築かれたとされ、その後大規模な改修が行われた勝山城跡などをめぐるルート。



勝山城跡
発掘調査され、
竪堀などがみつ
かっている

③中巨摩郡・中央市・西八代郡・南アルプス市・南巨摩郡編

オススメルート

水との闘い、治水工事のエキスパートが住む地（昭和町・中央市）

釜無川の氾濫を防ぐために築られたかすみ堤とともに、治水事業に関わった人物である三井右近丞の屋敷跡などをめぐるルート。



かすみ堤
不連続な堤防の
こと。一部は公
園になり、見学
できる

編集後記

今号の編集期間中に当センターや県内市町村教育委員会などが行った発掘調査成果を発表する遺跡調査発表会が開催されました。このほかにも、当センターや市町村では発掘調査やその研究の成果を紹介するシンポジウムや発表会、イベントなどを開催しています。ぜひチェックしてくださいね。(ゆ)

埋文やまなし 第70号

発行 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

☎ 055-266-3016

印刷 株式会社峡南堂印刷所



HPはこちら